

職員の意見反映約7割が否定的

行政システム改革職員アンケート結果

基本項目

配布枚数	5,745
回収枚数	4,371
回収率	76.1%

○支部別

支部別	人	%
桑員市	188	3.8
四日市	331	7.6
鈴鹿	152	3.5
津	501	11.5
本庁	1,334	30.5
企業	303	6.9
一志	250	5.7
松阪	354	8.1
伊勢	288	6.6
志摩	127	2.9
伊賀	223	5.1
尾鷲	159	3.6
熊野	175	4
NA(無回答)	6	0.1

○男女別

男女別	人	%
男	3,664	83.8
女	689	15.8
NA(無回答)	18	0.4

○年齢別

年齢別	人	%
30歳未満	1,038	23.7
30～39	1,467	33.6
40～49	1,095	25.1
50歳以上	763	17.5
NA(無回答)	8	0.2

○職種別

職種別	人	%
事務	1,970	45.1
技術	2,042	46.7
現業	347	7.9
NA(無回答)	12	0.2

○役職別

役職別	人	%
一般	2,421	55.4
係長級	789	18.1
課長補佐級	774	17.7
課長級以上	351	8
NA(無回答)	36	0.7

○その他

アンケートへのご協力ありがとうございました。

（桑員支部 T・K）

今回のアンケート結果は、その回答率(七六・一%)が示すとおり、他の一般的なアンケートと比較して一般のこの課題への感心の高さを示しています。また、記述式の各項目にも多くの具体的な回答が示されており、多くの職員がシステム改革に対し具体的な意見を有していることが明らかにされています。

三重県における行政システム改革は、これまでマスコミ等で取り上げられ、礼賛する声が多い中、現実には改革の中に位置する職員の意見は必ずしも周辺の評価と一致していないことが明らかとなりました。

行政論議が全国的に高まるなかで、このことに反対する否定的な意見はやもすると保守的であったり、職員の意識の問題とされがちになります。

行政論議が全国的に高まるなかで、このことに反対する否定的な意見はやもすると保守的であったり、職員の意識の問題とされがちになります。

三重県の行革は、「地方自治体から提起して行革を推進する」トップバッターとしての評価や、事務事業評価システム、グループリーダーへの

責任が大きいことなどが現れているものと思われ、業務の平準化や柔軟な組織運営を目指す導入されたが、グループの規模や無理な目標設定から現実には個人担当になってしまっており、本来の主旨に沿ったものではないと見えます。

庶務・経理の一元化については、担当者以外にはあまり強い認識を示していない状況にあります。担当者は、二度手間や中途半端な処理に対する不満があげられています。

今回の改革に伴い様々な問題が指摘されていますが、これらに対し改善を求める項目としては回答者の多くが「業務量を改善すべき」と回答しており、行政システム改革に伴って業務や組織体制を見直すといったもの、現実的には企画やイベントなどに人をとられ「業務は減らずに人だけ減った」という思いが強く感じられます。

行政システム改革は、「住民満足度の向上」を理念に進められましたが、「組織が進められなかった」という回答者の過半数以上が今回の行政システム改革がそのことにつながったと感じており、そういう意味からも非常に残念な結果となっています。

県職労は、これらの声をまとめてよく長い行政システムの構築と「職員のヤル気と住民満足度の向上」に向け、当局の真摯な議論と改善に向けた積極的な対応を要望します。

なお、現在アンケートの詳細な分析を行っています。第一弾として設問毎の主な内容について次頁以降に紹介いたします。

しかし、この一年間は勉強の期間として、一つでも多くのことを覚え、一つでも多くのことを吸収していきたい。

迷惑をかけつつがんばるぞん

本年四月から実施された「行政システム改革」に対して、県職労は八月下旬に「行政システム改革に関する職員アンケート」を実施し、職員の方や問題点についての調査を行いました。アンケートは、一部の職場(社会保険事務所、県立病院等)を除く全職員(管理職を含む)五、七四五人に配布を行い、三七一人からの回答(回答率七六・一%)を得ました。現在、アンケート結果について詳細な分析を進めています。全体的に回答者の過半数近くが今回の各設問に否定的な考え方を示しており、とりわけ「行政システム改革に対し職員の方々が十分に反映されたと考えますか」との問に対しては、回答者の七割近くが否定的な考え方を示しました。また、課長級と課長補佐級・係長級では各設問の回答結果に大きな隔りがありました。

県職労は今回のアンケートを基に今後ユーカリ要求と併せて諸課題の改善に向け引き続き取り組みを強化するとともに、アンケート結果の主な内容について紹介をします。

回答者の過半数が今回のシステム改革について否定的な考え方を示したことは、そういった論点だけでは整理し得ないものがあるといえるのではないのでしょうか。

三重県の行革は、「地方自治体から提起して行革を推進する」トップバッターとしての評価や、事務事業評価システム、グループリーダーへの

責任が大きいことなどが現れているものと思われ、業務の平準化や柔軟な組織運営を目指す導入されたが、グループの規模や無理な目標設定から現実には個人担当になってしまっており、本来の主旨に沿ったものではないと見えます。

庶務・経理の一元化については、担当者以外にはあまり強い認識を示していない状況にあります。担当者は、二度手間や中途半端な処理に対する不満があげられています。

今回の改革に伴い様々な問題が指摘されていますが、これらに対し改善を求める項目としては回答者の多くが「業務量を改善すべき」と回答しており、行政システム改革に伴って業務や組織体制を見直すといったもの、現実的には企画やイベントなどに人をとられ「業務は減らずに人だけ減った」という思いが強く感じられます。

行政システム改革は、「住民満足度の向上」を理念に進められましたが、「組織が進められなかった」という回答者の過半数以上が今回の行政システム改革がそのことにつながったと感じており、そういう意味からも非常に残念な結果となっています。

県職労は、これらの声をまとめてよく長い行政システムの構築と「職員のヤル気と住民満足度の向上」に向け、当局の真摯な議論と改善に向けた積極的な対応を要望します。

なお、現在アンケートの詳細な分析を行っています。第一弾として設問毎の主な内容について次頁以降に紹介いたします。

拙速すぎた改革による弊害深刻 課長級と補佐級・係長級に意識の隔たり

今回の改革に伴い様々な問題が指摘されていますが、これらに対し改善を求める項目としては回答者の多くが「業務量を改善すべき」と回答しており、行政システム改革に伴って業務や組織体制を見直すといったもの、現実的には企画やイベントなどに人をとられ「業務は減らずに人だけ減った」という思いが強く感じられます。

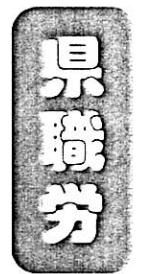
行政システム改革は、「住民満足度の向上」を理念に進められましたが、「組織が進められなかった」という回答者の過半数以上が今回の行政システム改革がそのことにつながったと感じており、そういう意味からも非常に残念な結果となっています。

県職労は、これらの声をまとめてよく長い行政システムの構築と「職員のヤル気と住民満足度の向上」に向け、当局の真摯な議論と改善に向けた積極的な対応を要望します。

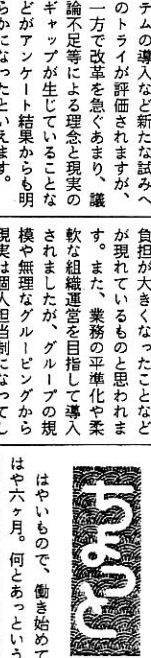
なお、現在アンケートの詳細な分析を行っています。第一弾として設問毎の主な内容について次頁以降に紹介いたします。



発行所
〒514-8389 三重県津市本町
三重県津市本町
三重県津市本町
三重県津市本町
三重県津市本町

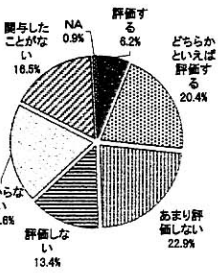


No. 445
行政システム改革
職員アンケート
特集号



Q.7 事務事業評価システム

事務事業評価システムが出先機関の一部を除いて実施されていますが、このことについて評価しますか。



評価する	273	6.2%
どちらかといえば評価する	892	20.4%
あまり評価しない	1,002	22.9%
評価しない	586	13.4%
わからない	655	19.8%
関与したことがない	723	16.5%
NA	40	0.9%

肯定した人を本庁と地域機関の客観的評価は必要」「事業の見直し機会になった」「職員の意識改革につながった」などであり、否定の主な理由は先に記した以外に「行政が多岐にわたるに比べて評価が難しい」「自分の仕事の成果を評価しにくい」「評価表の作成が目的となっている」などである。

肯定した人を本庁と地域機関

7割近くの職員が否定

「オープンな議論」職員期待はずれ

反映されているとどちらかといえば反映されているの肯定的な意見は二一・三%、あまり反映されていないと反映されていないの否定的な意見は六七・四%となっており、特微的な傾向としては、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

これは、当時の総務局が昨年、行政システム改革を進めるに当たり、情報系オープンに改革を進めるとして、職員から多数の意見が出されたにもかかわらず、その後の議論にそれらの意見がほとんど反映されないうまま、一方的に改革が進められたことに対して強い不満が示されたといえる。

また、昨年の議論は、総務局のみに限らず、他の局でも議論が行われ、その結果、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

全事業一律基準に問題

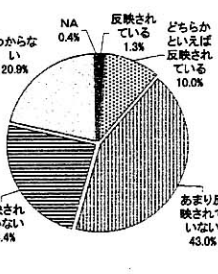
「予算にはほとんど反映されず

肯定の主な理由は、「事業の見直し機会になった」「職員の意識改革につながった」などであり、否定の主な理由は先に記した以外に「行政が多岐にわたるに比べて評価が難しい」「自分の仕事の成果を評価しにくい」「評価表の作成が目的となっている」などである。

肯定した人を本庁と地域機関

Q.8 職員の意見反映

行政システム改革は意思決定過程を公開し、議論を行うとして進められましたが、職員の考えが十分に反映されたと考えますか。



反映されている	59	1.3%
どちらかといえば反映されている	435	10.0%
あまり反映されていない	1,881	43.0%
反映されていない	1,067	24.4%
わからない	912	20.9%
NA	17	0.4%

「オープンな議論」職員期待はずれ

反映されているとどちらかといえば反映されているの肯定的な意見は二一・三%、あまり反映されていないと反映されていないの否定的な意見は六七・四%となっており、特微的な傾向としては、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

これは、当時の総務局が昨年、行政システム改革を進めるに当たり、情報系オープンに改革を進めるとして、職員から多数の意見が出されたにもかかわらず、その後の議論にそれらの意見がほとんど反映されないうまま、一方的に改革が進められたことに対して強い不満が示されたといえる。

また、昨年の議論は、総務局のみに限らず、他の局でも議論が行われ、その結果、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

理念先行現実伴わず

「オープンな議論」職員期待はずれ

反映されているとどちらかといえば反映されているの肯定的な意見は二一・三%、あまり反映されていないと反映されていないの否定的な意見は六七・四%となっており、特微的な傾向としては、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

これは、当時の総務局が昨年、行政システム改革を進めるに当たり、情報系オープンに改革を進めるとして、職員から多数の意見が出されたにもかかわらず、その後の議論にそれらの意見がほとんど反映されないうまま、一方的に改革が進められたことに対して強い不満が示されたといえる。

また、昨年の議論は、総務局のみに限らず、他の局でも議論が行われ、その結果、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

県民ばかりか職員も困惑

「オープンな議論」職員期待はずれ

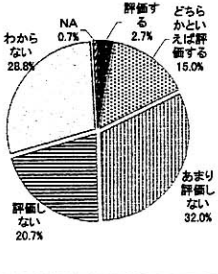
反映されているとどちらかといえば反映されているの肯定的な意見は二一・三%、あまり反映されていないと反映されていないの否定的な意見は六七・四%となっており、特微的な傾向としては、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

これは、当時の総務局が昨年、行政システム改革を進めるに当たり、情報系オープンに改革を進めるとして、職員から多数の意見が出されたにもかかわらず、その後の議論にそれらの意見がほとんど反映されないうまま、一方的に改革が進められたことに対して強い不満が示されたといえる。

また、昨年の議論は、総務局のみに限らず、他の局でも議論が行われ、その結果、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

Q.9 組織・機構改革

組織・機構改革はマトリックス組織の概念と部の再編の両面から進められましたが、今回の部局の再編について評価しますか。



評価する	120	2.7%
どちらかといえば評価する	654	15.0%
あまり評価しない	1,398	32.0%
評価しない	906	20.7%
わからない	1,261	28.8%
NA	31	0.7%

「オープンな議論」職員期待はずれ

反映されているとどちらかといえば反映されているの肯定的な意見は二一・三%、あまり反映されていないと反映されていないの否定的な意見は六七・四%となっており、特微的な傾向としては、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

これは、当時の総務局が昨年、行政システム改革を進めるに当たり、情報系オープンに改革を進めるとして、職員から多数の意見が出されたにもかかわらず、その後の議論にそれらの意見がほとんど反映されないうまま、一方的に改革が進められたことに対して強い不満が示されたといえる。

また、昨年の議論は、総務局のみに限らず、他の局でも議論が行われ、その結果、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

特に北勢で大きな不満

「オープンな議論」職員期待はずれ

反映されているとどちらかといえば反映されているの肯定的な意見は二一・三%、あまり反映されていないと反映されていないの否定的な意見は六七・四%となっており、特微的な傾向としては、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

これは、当時の総務局が昨年、行政システム改革を進めるに当たり、情報系オープンに改革を進めるとして、職員から多数の意見が出されたにもかかわらず、その後の議論にそれらの意見がほとんど反映されないうまま、一方的に改革が進められたことに対して強い不満が示されたといえる。

また、昨年の議論は、総務局のみに限らず、他の局でも議論が行われ、その結果、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

生活環境部で大きな問題

「オープンな議論」職員期待はずれ

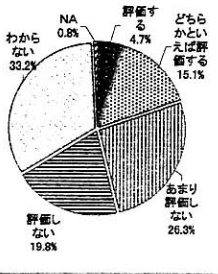
反映されているとどちらかといえば反映されているの肯定的な意見は二一・三%、あまり反映されていないと反映されていないの否定的な意見は六七・四%となっており、特微的な傾向としては、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

これは、当時の総務局が昨年、行政システム改革を進めるに当たり、情報系オープンに改革を進めるとして、職員から多数の意見が出されたにもかかわらず、その後の議論にそれらの意見がほとんど反映されないうまま、一方的に改革が進められたことに対して強い不満が示されたといえる。

また、昨年の議論は、総務局のみに限らず、他の局でも議論が行われ、その結果、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

Q.10 県民局の体制強化

県民局の体制強化を目的に、組織の見直しと部制の導入等が行われましたが、このことについて評価しますか。



評価する	206	4.7%
どちらかといえば評価する	661	15.1%
あまり評価しない	1,151	26.3%
評価しない	886	19.8%
わからない	1,452	33.2%
NA	35	0.8%

「オープンな議論」職員期待はずれ

反映されているとどちらかといえば反映されているの肯定的な意見は二一・三%、あまり反映されていないと反映されていないの否定的な意見は六七・四%となっており、特微的な傾向としては、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

これは、当時の総務局が昨年、行政システム改革を進めるに当たり、情報系オープンに改革を進めるとして、職員から多数の意見が出されたにもかかわらず、その後の議論にそれらの意見がほとんど反映されないうまま、一方的に改革が進められたことに対して強い不満が示されたといえる。

また、昨年の議論は、総務局のみに限らず、他の局でも議論が行われ、その結果、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

生活環境部で大きな問題

「オープンな議論」職員期待はずれ

反映されているとどちらかといえば反映されているの肯定的な意見は二一・三%、あまり反映されていないと反映されていないの否定的な意見は六七・四%となっており、特微的な傾向としては、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

これは、当時の総務局が昨年、行政システム改革を進めるに当たり、情報系オープンに改革を進めるとして、職員から多数の意見が出されたにもかかわらず、その後の議論にそれらの意見がほとんど反映されないうまま、一方的に改革が進められたことに対して強い不満が示されたといえる。

また、昨年の議論は、総務局のみに限らず、他の局でも議論が行われ、その結果、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

やはり保健福祉部

「オープンな議論」職員期待はずれ

反映されているとどちらかといえば反映されているの肯定的な意見は二一・三%、あまり反映されていないと反映されていないの否定的な意見は六七・四%となっており、特微的な傾向としては、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

これは、当時の総務局が昨年、行政システム改革を進めるに当たり、情報系オープンに改革を進めるとして、職員から多数の意見が出されたにもかかわらず、その後の議論にそれらの意見がほとんど反映されないうまま、一方的に改革が進められたことに対して強い不満が示されたといえる。

また、昨年の議論は、総務局のみに限らず、他の局でも議論が行われ、その結果、局別で、本庁の総務局で肯定的な回答が最も高く二六・四%、平均値の二四・二%となっている。

